

くまもと'84農林水産博

大きく実れ！くまもとの幸！！



アセアン三カ国の大使の臨席を得てオープンセレモニー。

セレモニーを皮切りに、十二日までの三日間、三部構成のバラエティに富んだ催しが続きました。

メイン会場となった熊本城二の丸催し広場の技術館では、今話題のバイオテクノロジーコーナーに人気が集まりました。ハイブリッドメロンなどの品種開発、双子牛の生産研究といった展示を、くい入るように見る年輩の方々の目が特に印象的でした。

一方、百貨店とホテルで行われたフォーラムも、青年層を中心に熱気あふれるものとなりました。初日の「活力と個性ある地域づくりをどう進めるか」では、農村の村づくりについて討議しましたし、また最終日の「世界の青年と語ろう」をテーマにした国際フォーラムでは、二十二カ国の青年を含む五百余人余が参加し、農林水産業を通しての国際交流が真剣に話し合われました。

上通・下通・サンロード新市街では、熊本が日本一を誇るイ草・甘夏ミカン・スイカ・アサリなどのオンパレード。即売コーナーには、買物途中の主婦たちが足を止め、改めて熊本の水産力を見直すことになりました。

こうして県農業の現状を紹介し、未来の展望を示したくまもと'84農林水産博は成功裡に幕を閉じました。西日本一の農業県といわれる熊本。基幹産業として着実な進歩を遂げつつある農林水産業を、さらに足腰の強いものとするための手がかりを得ることができたのではないでしょう



林内作業の省力化、枝打ちロボット



土を使わない農業「養液栽培」



あなたの食べる一年間の食料は……農林水産業の重要性と自給率向上の必要性を訴えるコーナー。



食卓より速く、より新鮮に。魚の放流技術の展示。



木のぬくもりがたつたわの間伐材利用の物置、イス・テーブル、遊具。



心にやすらぎを与える日本一の生産を誇るくまもと畳表。



有明から直送されたアサリ貝は人気も上々、生産者と消費者のふれあいの場ともなった。



各地域別の特産品コーナーではいろいろな演出も。



活力と個性ある地域づくりをどう進めるか。「地域づくり」フォーラムは実践者の体験談や農林水産博の共催行事として開かれた酒まつり。元阪神の小林繁さんも駆けつけ、一段と華やいだ。



活発な意見が続出した。



ニュースカイホテル国際会議場での「国際」フォーラム。「国際化と日本農林水産業の展望」をテーマに討論会が行われた。

技術館

プロムナード

フォーラム